

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 52 学校名 中津高等学校（全日制）

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域や大学等と連携・協働し、グローカルな視点を培う高校として一人一人の学びを尊重、支援し、主体的で深い学びを実践する教育活動を通して思索を深め、自らを高め、地域に貢献できる人材の育成を目指す学校								
学校教育目標 (教育方針)	<p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3) 「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>								
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 創造力と協働力を身に付け、敬愛心をもって、将来グローカルに活躍できる生徒 自己を理解する力を身に付け、自らすべきことを考え決断し、自分を律しながら行動できる生徒 幅広く質の高い教養を身に付け、ものごとを深く探究し、自分の考えを発信できる生徒 							
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、論理的に自分の考えを発信できるよう、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進 一人ひとりの学びを深め、自己実現につながるためのカリキュラム編成と、個に応じたキャリア支援の実施 地域や世界の抱える課題を考察・解決し、仲間と協力して新たなものを創造する力を育成する探究的な学びの推進 							
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い好奇心をもち、自分の考えを発信したり他者の意見に耳を傾けたりしながら、多様な学びに対し前向きに取り組もうとする生徒 自らの可能性を信じ、主体的に自分の進むべき道を見付け、それに向かって継続的に努力しようとする生徒 地域活動やボランティア活動、学校行事、部活動に意欲的に参加し、他者と協働して物事を成し遂げようとする生徒 							
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 確認テスト（単元テスト）の運用の確立と地域への広報活動が必要である。 行事が多く、どの内容も濃いため、教員が時間外勤務時間が多い。 幅広い成績の生徒が入学し、多くの生徒の学習は量、質ともに未成熟である。 生徒自らが進んで学ぼうとする態度が十分に身に付いていない生徒がみられる。 学校生活の各場面で受動的な姿勢で取り組む生徒が多く感じられることから、自ら主体的に行動できる生徒の育成が重要である。 								
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標							
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力を高め、その魅力の広報活動を推進する。 教職員の勤務環境の改革に関する取組を推進する。 							
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 単位制教育課程の効果的運用や学校内外の課題に素早く対応する。 授業改善に努め、意欲的に取り組む態度を育て、確かな学力を育成する。 							
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう助言と支援に努める。 個々の生徒の特性を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに、適切な情報を提供し、計画的な進路（人生）設計の補助に努める。 							
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人をより深く理解すると共に、将来のリーダーとなりうる生徒の育成に努める。 自己有用感、自己肯定感を育めるように生徒個々の活動を支援する。 							
年 度 目 標		年 度 末 評 価 (自 己 評 価)							
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成績と課題	総合評価 A. B. C. D		
学校経営	・生徒や教員にとって魅力のある学校づくりを推進し、中学校生徒及び保護者や教職員、地域住民への広報活動を積極的に行う。	施策IV-20	・体験入学、オープンスクール等のアンケート結果	・本校の魅力が伝わる内容の中学校への説明会や参加者が楽しめる夏の中学生体験入学、秋のオープンスクールの実施	B	・前年度と比べ、夏の中学生体験入学は629名から763名の21%増加、秋のオープンスクールは生徒が119名から174名の46%増加、保護者が31名から55名の77%増加した。	B		
	・長時間勤務の解消、ハラスメントとメンタル不調等の速やかな察知と解決に向けた組織・体制づくりを取り組む。	施策IV-27	・勤次郎やエントリーシート、ストレスチェックの結果	・学校だよりの積極的な発行と学校HPを見やすいものへと更新		・学校だよりは年間15号ペースで発行し、「すぐぐる」で保護者への広報を行った。学校HPは現在更新中で近日変更予定。			
	・職員会議等の機会を活用して、学校法規の内容や趣旨をよく理解し、職務の遂行に専念するなどコンプライアンスの意識向上に努める。	施策IV-28	・管理職による面接 ・不祥事防止や情報セキュリティ等各種のチェックシートの回答状況	・長時間勤務やハラスメントの防止への意識を高揚させるための職員研修の実施 ・コンプライアンス遵守への意識高揚のために守るべき規範の周知やアンケート等の実施		・8月以外、20~25名の職員が時間外勤務が45時間以上で、業務の見直しが必要である。 ・ハラスメント研修を年2回実施した。			
学習指導	・各教科・科目の基礎・基本が確実に身に付く「分かる授業」を行う。	施策IV-23	・生徒、保護者アンケートの調査結果	・確認テストの運営を改善して、授業目標の明確化とテストごとの振り返りから授業改善を図る。	B	・アンケート調査結果より「分かる授業」への評価について、生徒5%アップ(92%)、保護者7%アップ(83%)の評価を得た。	B		
	・確認テストの導入により学力の定着を図り、生徒の自主学習の充実を図る。	施策II-8	・生徒による授業評価を実施し、満足度やコメントによる評価	・単元テストと並行して、学校全体で模擬試験への取組に力を入れてきた。授業での扱いや普段からの声かけ等を行う。		・3年生の模擬試験の結果は過去5年間と比較しても比較的良い結果を残してきた。しかしながら年々学力層の二極化が進んでいる。			
	・探究学習、教科横断的学習を取り入れる等、授業改善に努める。	施策IV-26		・授業改善週間を実施して、教科を越えて授業見学をする。また、高大連携講座への参加を呼びかけ学校外でも探究学習に取り組めるよう促す。 ・学習指導委員会を通して、教科ごとに活用状況の把握及び研究を行う。		・高大連携講座の参加者は前年度と比べ44名から57名と增加了。来年度以降も継続したい。			
	・意欲的に学習に取り組む態度を育成するため、ICT・タブレットを活用した授業を行う。	施策II-9		・学習指導委員会を通して、教科ごとに活用状況の把握及び研究を行う。		・ICTやタブレットの効果的な活用を今後も継続して研究する必要がある。			
進路指導	・各学年の年間計画と支援目標を設定し、3年間を見通した支援を行う。	施策II-13	・生徒、保護者アンケートの調査結果	・進路講話や進路通信による進路意識の醸成	B	・講話の感想文では、進路意識が高まったという内容が多かった。	B		
	・生徒がより主体的に学問を探究する姿勢を養うため、総合的な探究の時間の内容を充実させる。	施策I-4	・各種事業実施後のアンケート結果	・中津高校オリジナル手帳の活用		・年度初めの手帳指導の充実が課題。			
	・保護者のための進路サポート勉強会を実施し、最新の進路情報を提供し、進路相談の充実を図る。	施策I-7	・進路結果や生徒、保護者の満足度	・保護者のための進路サポート勉強会の実施		・ある3年の保護者から「1,2年のときから勉強会を視聴してきたことで大学受験の知識が深まった。ぜひ1,2年の保護者にも視聴を呼び掛けてほしい」という言葉をいただいた。			
	・インナーシップなどの体験学習を推進する。	施策II-13		・模試対策や補習の充実		・対策や分析が不十分な教科もある。			
生徒指導	・互いに個性を尊重し「意欲的な学校生活」「安心できる学校生活」を送れる生徒支援を推進する。	施策I-1	・生徒、保護者アンケートの調査結果	・生徒会、委員会による主体的な活動の支援	B	・生徒が意欲的、主体的に活動し、旭陵祭では2000人を超える来場者があった。	B		
	・教育相談の充実、SCや相談員と連携、ほっとプレイスの活用などにより、生徒に応じた支援を行う。	施策I-3	・迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握	・生徒が計画、実施するLHRの活性化。		・ほっとプレイスを活用しながら、不登校生徒へのサポートができたが、一時避難以上の解決につながっていないなど、課題は多くある。			
	・時間や場所にふさわしい身なりや行動がとれ、価値観の多様性を理解できるよう支援をする。	施策I-2	・諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察	・ほっとプレイスの有効な活用法の検討。		・生徒アンケートの結果は保護者以上に高い。創立120周年、新制服、生徒会Instagramなど、学校の魅力を保護者や外部に発信していきたい。			
	・CCC活動を活性化し、地域と連携した自主的な生徒会活動、委員会活動を展開する。	施策I-4		・部活動の活性化。実質的な活動人数を増やす。活動を外部に発信する。 ・創立120周年を活用し、新制服について考えるとともに、学校の活性化を図る。					
来年度に向けての改善方策等		実施日：令和8年2月12日		学校関係者評価		実施日：令和8年2月12日			
<p>・令和6年度まで進路支援部で「総合的な探究の時間」、教務部で「地域探究活動・地域探究チーム」や「ふるさと教育」、生徒支援部で担当していた「CCC活動」を担当していた探究活動の業務について、今年度は一括して担当する分掌「研修探究部」を設置した。特定の職員から探究部職員に探究活動の企画や運営について共有されてきた。更に探究活動の探究活動の系統化、活性化を高めていきたい。</p> <p>・学力層の二極化に伴い、学習指導について今後検討する必要がある。</p> <p>・東濃地区の令和9年3月に中学校を卒業する生徒数が、令和8年3月に卒業する生徒数より約90名減る。更なる広報活動の強化を進めていきたい。</p>				<p>・探究学習発表会を参観して、生徒の自主性を大切にして行事に取り組ませていると感じた。また、「地域交流」「中津川長生き」という言葉が出るなど、地元に関心を持っている生徒が多くいて嬉しく感じた。</p> <p>・生徒減少に伴い入学者数も減少する心配がある。中津高校の特色や魅力を中学生や地域住民にアピールしてほしい。</p> <p>・高大連携講座は中津高校の魅力のひとつでもある。中京学院大学が移転するが、再来年度以降も続けられるよう高校側も強く働きかけてほしい。また、他分野についての講座も開講するためにも他大学との連携もお願いしたい。</p> <p>・毎年、中京学院大学で共通テストを実施しているが、大学が移転することに伴い共通テストの会場が遠方になると生徒、保護者とも負担になる。今まで同様近くで受験ができるよう要望してほしい。</p>					